

# 標茶町議会第2回定例会

一般質問通告一覧

令和4年6月2日

No.1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	鴻池智子	1. 地方創生臨時交付金の活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が拡充し、コロナ禍における原油価格、物価高騰対応分が創設されました。すでに4月28日付で、自治体への交付限度額が通知されているとの事です。生活者、事業者の方々は色々な分野で大きな負担を強いられています。この交付金は自治体の判断により地域の実情に応じて活用出来るとのこと。そこでこの交付金の活用について町の考えを伺う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①町の限度額はいくらか。</li> <li>②学校給食費の負担軽減で、子育て世帯に対する支援。</li> <li>③生活者に対する、電気、ガス、水道料金の公共料金の負担軽減。</li> <li>④地域経済の活性化と生活支援を目的としたプレミアム付き商品券の発行。</li> <li>⑤町内事業者に対する経営支援。</li> </ul> </li> </ul> <p>等考えられるが本町の交付金活用をどのように考えているか伺う。</p>	町長 教育長	
4番	松下哲也	1. 町車輛のドライブレコーダーの設置状況は	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、交通安全対策、運転マナー等様々な観点から自家用車にドライブレコーダーを設置する方が増えてきている。テレビ等では、野生動物の飛び出しによる事故や衝撃的な映像などが放映されており、ドライブレコーダーによるものが多いと認識している。万が一の場合は公正な判断の重要な資料となっている。町車輛のドライブレコーダーの設置に関しては令和3年第1回定例会に於いて同僚議員が質問しているが再度伺う。人員輸送車輛に関しては特に設置される必要性が高いと認識するが所見を伺う。町路線バス、スクールバス、行事バス、デイサービス送迎バス等には全車設置されているか。また、保育所給食配送車、学校給食配送車等毎日運行される車輛には優先的に設置されるべきと考えるが如何か。</li> </ul>	町長 教育長	
8番	深見迪	1. 成人年齢引き下げによる若者の消費者被害等を防ぐ措置を	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人年齢を20歳から18歳に引き下げる改定民法が2022年4月1日施行された。これからは大人として、親などの同意を得ないで高額な商品の購入、ローンやクレジットカードの契約が可能になる。自己決定権を拡大するという積極的な意義はあるが、同時に未成年者取消権が適用されなくなるため、消費者被害の拡大などが懸念される。この点について町長の所見を伺う。</li> <li>様々な被害のなかでも、高校生を含む18、19歳のAV出演強要問題は特に深刻</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
8番	深見迪	2. 学校のトイレ個室に生理用品の設置を	<p>である。AV映像は、インターネット上で拡散され、記録され続け、被害は重大である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未成年者取消権は18、19歳のAV映像の販売・流通を止める有効な救済手段だったが、この救済ができなくなる。</li> <li>・ 実践的な消費者教育の充実、消費者被害への相談体制の強化・拡充などだけでなく、18、19歳を消費者被害から守る実効性のある対応が緊急に必要なだと考えるが、高校も含めて、これらの取り組みを具体化するべきと考えるがどうか。</li> </ul> <p>・ 厚生労働省が初めて実施した生理用品の調査で、購入・入手に苦勞した経験のある女性が8.1%に上り、20代以下の若年層では12%超となった。この理由として、経済的な要因が多く上がっていると考えが所見を聞く。</p> <p>・ いわゆる「生理の貧困」は、コロナ禍の中、困窮する家庭が多くなったことで語られるようになり、政府も支援を行い始めた。「生理の貧困」は女性の健康や尊厳、様々な機会が奪われるという深刻な問題であると考えがどうか。</p> <p>・ このような状況下で、とりあえず学校のトイレに生理用品を具備することが必要であると考えがどうか。保健室に用意してあるからそれで十分だという考え方が一部にあるが、保健室に行くことは特殊な状態にあるのが一般的である。しかし、生理というのは特殊な状況ではなく女性・女兒にとっては日常的なことであるが、また極めてプライベートで、デリケートなことでもある。したがって、抵抗なく処置できる環境を整えることが必要であると考えがどうか。</p> <p>・ 内閣府の調査でも明らかであるように、昨年7月時点で全国581の自治体が無料で配布するなど何らかの支援に取り組んでいると聞いている。本町でも町民が問題意識をもって「生理用品」を集めて教育委員会に届けたという話も聞いている。このように、この問題については、本町でも問題意識を持って取り組んではどうか。</p>	教育長 町長	
1番	渡邊定之	1. 所有者不明土地の対策を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法の一部を改正する法律」が改定された。この法律は、人口減少、少子高齢化が進む中、相続件数の増加、土地の利用ニーズの低下と所有意識の希薄化が進行し、今後、所有者不明土地の更なる増加が見込まれるので、その利用の円滑化の促進と管理の適正化が喫緊の課題だとしている。</li> <li>・ 本町にはこの様なケースの土地はないか。また、所有者不明土地はどの程度あるのか。</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	渡邊定之		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この改正法律は、この土地を活用し自然災害に備える等の目的や、所有者不明土地が適性に管理されていないことにより、周辺地域に深刻な悪影響を及ぼすことが懸念されているなどを背景にして活用が進められているが、本町として所有者不明土地の積極的活用としかるべき対策を講ずるべきと考えるがどうか。</li> <li>・ また、この法律の積極的な活用は、「U、I、Jターン」の支援を拡充し、若者をはじめ「地方回帰」の流れの後押しとなると考えるがどうか。</li> </ul>		
12番	後藤勲	1. これからの標茶町の観光をどのように考えているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長年の課題でもあった、憩の家かや沼の改築が12月までには完成を見る予定となっていることや、多和平のトイレ等も改修されることから、観光地の少ないこの町においては画期的な年になろうとしています。特に多和平については、年間多くの観光客が来るにもかかわらず思うような整備がされていないのが実状です。展望台の売店は鍵がかかって寂しい思いがします。キャンプ場の面積は決して広いとは言えず、炊事場は完備されているが、傾斜がきついなどの苦情も聞かれ、整備が必要ではないかと考えるが町の考えを伺う。また、駐車場には、しべちゃ物産公社の素晴らしい食堂もあり、多和平には更なる集客を可能にするための十分なスペースもあることから、整備にもう少し力を入れることが大事だと思います。これらのことから <ul style="list-style-type: none"> <li>①展望台にトイレを作ることはできないのか。</li> <li>②展望台に売店は復活することはできないのか。</li> <li>③キャンプ場の拡大と整備はできないか。</li> <li>④ドッグランを作ることはできないのか。</li> <li>⑤昔あった乗馬の復活を考えられないのか。</li> </ul> </li> </ul> <p>以上伺う。</p>	町長	
6番	鈴木裕美	1. コロナ禍での幼稚園、保育園のフッ化物洗口の中止を求める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今だに収束の見通しはたっていない新型コロナウイルス感染症ですが、北海道は市町村別1週間累計を公表している。5月1ヶ月間の感染者数は釧路市、釧路町を除く5町の中では本町が一番多く、子どもの感染が多いと聞いている。以前、何度かフッ化物洗口は人体への健康被害が懸念されることから実施すべきでないと言ってきた。しかし、以前の状況と今では状況が大きく異なっている。町長は、今年度の施政方針の中で、フッ化物洗口の実施を謳われて</li> </ul>	町長 教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
6番	鈴木裕美		<p>いたが、新型コロナウイルス感染症が収まらない状況の中にあっても施政方針に謳われていたのは何故か伺う。今年度は小学校でのフッ化物洗口は実施しないことになった。その理由の一つにコロナ禍の中、飛沫感染の恐れもあるからと聞いている。蔓延防止や緊急事態宣言は解除されたが、大声での会話の禁止、給食の黙食は続いている。そのような状況の中で小学校が中止したのに幼稚園、保育園は今も続けているのは何故か。行政として所管が違っても見解は統一するべきと考える。幼稚園、保育園でのフッ化物洗口は中止すべきと考えるがいかがか。</p>		
2番	類瀬光信	<p>2. 中学生の自転車通学でのヘルメットに補助を</p>	<p>・ 標茶中学校では、今年度から自転車通学の生徒にヘルメット着用が義務付けられた。保護者からはヘルメットが高額であることやデザインが様々で生徒同士でのトラブルの元にもなるので、学校で統一し斡旋を望む声があがったと聞いている。教育委員会は、標茶中学校が1km以上の通学距離で自転車通学にヘルメット着用をすることと他の中学校での自転車通学の実態を把握しているか。保護者の負担軽減や登下校時の安全確保のためにヘルメット購入への助成を求めるがいかがか。</p>	教育長	
		<p>1. 苦境に喘ぐ酪農に具体的な支援が必要ではないか</p>	<p>・ 北海道内産生乳価格は、3年連続の据え置きが決定している。生産抑制や飼料・燃料高など、経営への圧迫要素が重なる酪農家は、収入増が望めない状況におかれている。加えて本町では、「オソ18」の影響で育成経費の増加、粗飼料確保に関する不安が払拭できていない。こうした状況ではあるが、持続的な再生産のループの中に温室効果ガス削減への取組みも組み込まなければならないなど、課題が山積している。酪農の進むべき道筋は、国からも北海道からも明確に示されてはおらず、酪農家は苦悩している。町としての諸課題解決策を明らかにして、基幹産業を守るためのビジョンを示すべきではないか。持続的再生産を目指している町の考えを聞く。</p> <p>① 町は、町内の酪農の現状をどのように認識しているか。</p> <p>② 生産費を抑制するため、敷料の原材料として町有林、間伐材、風倒木を無償提供する考えはないか。</p> <p>③ 過去の「オソ18」被害が集中する放牧後二ヶ月以内の牧野衛生を徹底すべきではないか。</p> <p>④ 「オソ18」被害地域の酪農家が、後継牛育成に大きな不安と負担に苦しんでいる事実を把握しているか。捕獲以外に後継牛育成への支援が必要と思うがどうか。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
2番	類瀬光信	2. アイヌ政策推進 交付金事業に関する 地域計画に矛盾はないか	<p>⑤ 温室効果ガス削減への取組みを具体的にどう進めて行くのか。</p> <p>⑥ 酪農の衰退は、町の経済状況の悪化を招く。なりふり構わず食い止めるべきではないか。</p> <p>・ 2019年4月、国は「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（以下、アイヌ新法）を成立させた。「アイヌ文化の振興」、「アイヌの伝統等に関する知識の普及・啓発」、そのための「環境整備策」を柱とするものだ。しかし、多くの自治体は、これらの施策に取り組むことで交付される「交付金」の獲得を目的として、「観光振興」や「箱物造り」に邁進しているとの批判もある。本町は、どうか。</p> <p>新法成立時、町は、アイヌ協会が解散して相当の歳月が経過して、「アイヌ政策推進地域計画」が策定できないので、交付金事業の実施は不可能としていた。しかし、実際には地域計画を策定し、交付金事業に取り組んでいる。交付金事業実施に至る経過と事業内容、進捗状況について聞く。さらに、地域計画の中に、本町のアイヌの実態と課題をどう反映させ、人々の誇りが尊重される社会をどう実現しようとしているのか聞く。</p>	町長 教育長	